

山北町立岸幼稚園

研究テーマ：幼児教育の質に関する認識の共有、家庭や地域（学校）の連携の在り方

1、実践の目的

山北町では、幼・保・こ・小・中の全職員が「めざすこども像」を共有し、15年間を見通した系統的な教育をめざす「0歳から15歳までの一貫教育・保育」を今年度より推進してきた。

本園では、様々な人との関わりをとおして、豊かな心と社会性を育むことが必要だと考えた。そのために幼児期の終わりまでに育ってほしい「10の姿」に視点をおいた教育・保育実践を重ね、子どもたちの育ちを広く家庭・地域に発信し、園・家庭・地域（学校）が一体となって支え育てるための取組や連携の在り方を探ることとした。

2、実践の内容

（1）家庭や地域への情報発信の工夫

園内外に掲示板を作成して、いつでもかわりかかっている「開けた場」になるように、ドキュメンテーションや園だよりなど、子どもたちの姿を積極的に発信し、家庭・地域の園の教育・保育についての理解を深めた。

また、子どもの育ちや学びを分かりやすく伝えるツールとしてiPadを活用した。

（2）実体験をとおした家庭・地域・異年齢とのかかわりの充実

異年齢、他園の仲間、地域の方々との心動かされる体験や交流をとおして、他者とのかわり方を学ぶとともに、相手意識を高め、思いやりや優しさなどの心の醸成に努めた。

（3）0歳から15歳までの一貫教育・保育教職員間の「顔の見える関係」づくりのために、情報共有の場を適宜設けたり、行事等の情報交換や意見交換を積極的に行ったりした。また、小学校の研究会への参加や参加しやすい園内研究会の在り方を工夫し、互いの教育・保育についての理解を深めた。

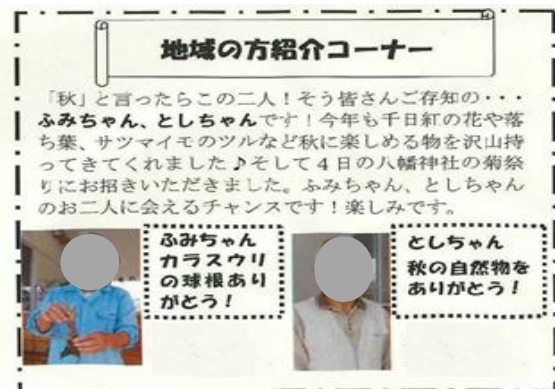
3、実践の成果

（1）家庭や地域への情報発信の工夫

地域の方の協力で、掲示板が見やすくなり、園の様子を見たり、子どもたちに声をかけてくれたりする地域の方が増えた。〈新しくなった掲示板〉



また、ドキュメンテーションで子どもたちの活動の様子を積極的に発信したり、園だよりで地域の方を紹介したりしたことで家庭から「地域に愛着がもてた」という声を聞くことができ、家庭・地域とのつながりが深まった。



〈園だよりの地域の方紹介コーナー〉

(2) 実体験をとおした家庭・地域・異年齢 とのかかわりの充実

地域とのハロウィンパーティーでは、異年齢や地域の方との交流を深め、人とかかわる楽しさを味わえる



〈地域の方とのふれあい〉活動となった。また、保護者が企画した親子体験では、山北の豊かな人的資源を生かして「親子和菓子づくり体験」をしたことで、山北の良さを親子で知る機会となった。

こうした地域とのふれあいをとおして、「地域の人に園に来てほしい」という思いを子どもがもち、地域の方々との焼き芋パーティーを計画、実施した。地域の方々と形式的ではないかかわりがあったからこそ、子どもと地域の方々の思いがあふれた行事となった。保護者にもその様子をiPadの動画で伝えたところ「地域の良さを感じました。」という声を聞くことができた。今後も地域とのかかわりを大切にしていきたい。



〈きしっこ応援団（地域の方々）と
焼き芋パーティー〉

(3) 0歳から15歳までの一貫教育・保育
これまでの小学校との連携は、学校探検や1年生との交流などの行事的なかかわりであったが、互いの思いを知る機会は少なく、交流が形式的になっているところもあったため、今年度は「本音で語り合い、顔の

見える関係づくり」をめざして、園全体で連携の意義を理解・共有した。

また、情報共有の場を設けたことで、互いの思いを知ることができ、行事以外でかかわる方法はないかを探った。5年生の総合的な学習での米作りと園の泥んこ遊びが同じ田んぼであることを知り、田んぼを生かした交流を行うことにした。5年生の田植えなどを見学し、同じ場を共有したことで、小学生への思いと稲への関心も高まった。

ある日、稲が鳥に食べられていることに気づいた子どもが「かかしを作ろう」と提案し、思いの詰まったかかしを作成した。

5年生にかかしをプレゼントするセレモニーでは、5年生が花道を作って迎えてくれたり、大切にすると声をかけてくれたりするなど、心温まるセレモニーとなり、互いの指導内容の理解につながっただけでなく、子どもたちの育ちの共有や思いをつなぐ大切さとともに、幼小の連携の良さを時間する活動となった。



〈かかしがつなぐ幼小の連携〉

4、今後の展開

- 小学校の運動会などの行事を積極的に参観し目的等を共有する。
- 小、中の授業参観、研究会に参加し、互いの教育・保育への理解を深める。
- 年長児と小学生との交流の場を設定し、子どもたちのかかわりを深める。
- めざす子ども像のさらなる共有を図る。